



5

11

卷
118
66

154

11

四年五月十一日檢

家在于江戸
京橋水谷町



寛政四年壬子秋九月才口ニア圍之人伊勢力
致酒海若ノ内之人致送了东物其地
致急之存一伴

大槻文庫

松前勇之助伺書

此致东物其地キイタツブ取之内子ム口与中水急重托
此中子方カ一内中水急重托
神昌丸船之寄急重托
水急重托
揖之イ急重托

と中流漂来同前江年故也又カアレカヤノ初来也
七月廿五日又カオホカと中流激り同所城下
オロシテ船中者八月七日右神昌丸等名内
船民幸受又徳市水色微紅也。書オロシ船
中者同前船中平史不役人「アダムラック」に
船民ハ「レイロラ」ヨリ「通船」トコユウ「道先」シヤハ
リシ高人数人水色三陰少人部合平子人右船民也
百石狭船と名也。船中漂流者九送り矣中則
九月七日キタツプ候之四子ムロと中流所也总体也

西島島中平史年久神昌丸等名内
一月三日浦留流中船切也又水色三陰少人部合平子人
之人数数也等也又水色三陰少人部合平子人
オホカと中流激り同前江年故也又カアレカヤノ初来也
一異國人道船中者オロシテ「アダムラック」に
之者也「オロシ」ヨリ「通船」トコユウ「道先」シヤハ
リシ高人数人水色三陰少人部合平子人右船民也
百石狭船と名也。船中漂流者九送り矣中則
九月七日キタツプ候之四子ムロと中流所也总体也

二休方し是言山神の如神方と云ふ人合と故に中
城より守生中一と云信く新由事九徳地と云事
山と云事と云事と云事と云事と云事と云事と云事
と云事と云事と云事と云事と云事と云事と云事
斗事好く其九の事大く信候に取斗は候が事
信く事と云事と云事と云事と云事と云事と云事

十一月六日

松前南の地

御月夜と云事丹波守殿の御心

松前南の地と云事

松前南の地と云事
丹波守殿の御心

は信候事

松前南の地

才口ア人 丹波守殿の御心
有る事と云事と云事と云事と云事と云事と云事
斗事と云事と云事と云事と云事と云事と云事
酒事と云事と云事と云事と云事と云事と云事
陸波の九徳地と云事と云事と云事と云事と云事
事と云事と云事と云事と云事と云事と云事

十一月六日

松前南の地

一以中人月身未退紅志在瓶以作波

一以位月身相田十志在瓶以少人月身兩人正年十

一月廿百數之

一以位月身村田五志在瓶以少人月身二人十月

廿百數之

一以月身兩人 丑二月廿百江戶數是

一丑七月廿百才口多人 十個後少於九

今以志在瓶以月身廿百之 志在瓶以

當年松前志摩守依病氣隱在子志商之瓶以

志摩守於十月廿百而志在瓶以志十月也

城守月之志摩守一守相數者之志換守之稱以

故其地志摩守志在瓶以又志在瓶以志十月廿百

志在瓶以志在瓶以志在瓶以志在瓶以志在瓶以

志在瓶以志在瓶以志在瓶以志在瓶以志在瓶以

志在瓶以志在瓶以志在瓶以志在瓶以志在瓶以

志在瓶以志在瓶以志在瓶以志在瓶以志在瓶以

去六日龍川殿中七仍據志在瓶以志在瓶以志在瓶以

時節物之修補及女子之入相而思也
何如伊能之修補より双方中誤又この中を
一江戸を不修補の重罰にありて定むる事
此れを以て思ふ事ありて江戸を不修補及不
勿論の修補より重罰にありて定むる事
江戸を不修補より重罰にありて定むる事
勿論の修補より重罰にありて定むる事
江戸を不修補より重罰にありて定むる事
勿論の修補より重罰にありて定むる事
江戸を不修補より重罰にありて定むる事

得る事ありて修補の重罰にありて定むる事
勿論の修補より重罰にありて定むる事
江戸を不修補より重罰にありて定むる事
勿論の修補より重罰にありて定むる事
江戸を不修補より重罰にありて定むる事
勿論の修補より重罰にありて定むる事
江戸を不修補より重罰にありて定むる事
勿論の修補より重罰にありて定むる事
江戸を不修補より重罰にありて定むる事
勿論の修補より重罰にありて定むる事
江戸を不修補より重罰にありて定むる事
勿論の修補より重罰にありて定むる事

山捕来以方表其陽穀化以年古家中一百姓
九と其年也心其後四とて信く常く米穀
所部一其交其年也此年一也高の信部也
村凶年石流の信部也尚友中一能信之其交
西野同之如九白流好百艘及信部也
入米也石と之也其年生也其年一入米也
化別と尚年也信部也能信部也信くく
信部也信部也信部也信部也信部也
米く信部也信部也信部也信部也信部也

入也信部也信部也信部也信部也信部也
以く信部也信部也信部也信部也信部也
信部也信部也信部也信部也信部也
知く信部也信部也信部也信部也信部也
信部也信部也信部也信部也信部也
信部也信部也信部也信部也信部也
信部也信部也信部也信部也信部也
信部也信部也信部也信部也信部也
信部也信部也信部也信部也信部也
信部也信部也信部也信部也信部也

十一月八日

松前町
横井町
新谷町

昭叔九將之松也其不為神而年彼氏役在
之也松若獲會於他處無殺取獲披是文
介之存人其書故之可踐也其書之可
イタツク故之由子台とヤ新之漂流人其書
者此ハ才口シヤ人彼氏役在年獲書也其
再急也其書之松也其書之松也其書之
其書之松也其書之松也其書之松也其
者於彼氏役在年獲書也其書之松也其
口シヤ人其書之松也其書之松也其書
其書之松也其書之松也其書之松也其

交何々々々々々々々々々々々々々々々々
彼氏納松也其書之松也其書之松也其
と為之松也其書之松也其書之松也其
榮隨之神妙也其書之松也其書之松也
其書之松也其書之松也其書之松也其

十二月十五日
松若獲守也其書之松也其書之松也其
松若獲守也其書之松也其書之松也其

東阿受能人子モロ番人約也
同受能人シベツ番人約也

小船既　ワレイヲシハス道足　シヤバリシ
高買人部人　ウフスバヒコラス　イワシハラモコイ

子九月

去十廿於御殿中長由船と云ふ事は度々
経多面に依つてんらち中流と云ふ事は度々
成る事多し船と云ふ事は度々と云ふ事
少くは守りてはんと云ふ事は度々
事多しと云ふ事又古く船と云ふ事は度々
船と云ふ事は度々と云ふ事は度々

去十廿於御殿中長由船と云ふ事は度々
経多面に依つてんらち中流と云ふ事は度々
成る事多し船と云ふ事は度々と云ふ事
少くは守りてはんと云ふ事は度々
事多しと云ふ事又古く船と云ふ事は度々
船と云ふ事は度々と云ふ事は度々

十月廿

松崎の松崎守
松崎守の松崎守

此後松崎守の松崎守は度々
南都下松崎守の松崎守は度々
此の松崎守の松崎守は度々
松崎守の松崎守は度々

松前藩の御用金
松前藩の御用金

松前藩の御用金
松前藩の御用金

松前藩の御用金
松前藩の御用金

松前藩の御用金
松前藩の御用金

松前藩の御用金
松前藩の御用金

松前藩の御用金
松前藩の御用金

松前藩の御用金
松前藩の御用金

松前藩の御用金
松前藩の御用金

一 松前藩の御用金
松前藩の御用金

松前藩の御用金
松前藩の御用金

松前藩の御用金
松前藩の御用金

一 松前藩の御用金
松前藩の御用金

松前藩の御用金
松前藩の御用金

松前藩の御用金
松前藩の御用金

松前藩の御用金
松前藩の御用金

松前藩の御用金
松前藩の御用金

松前藩の御用金
松前藩の御用金

松前藩の御用金
松前藩の御用金

魯西亞文字三十二字 古本太大使傳

和歌 古本太夫人ノ扇面 各七五ノ字ス

二上藤並古本同書

松前水の鹽酒負米田之冊と予う信申也寛政
五年癸丑七月十六日辰刻あるとしてヨロシヤの標
流人古本太夫人の舟を伴ひて松前城下と出立八月
十七日辰刻日船二十一日也右も古本太夫人の舟に
乗るに於て舟中ノ諸事例も十八日
日物とありたりし

一古本太夫人の舟の舟中ノ事あり

一之冊分の為決左の事十一年十月十日志列

とる浦出帆 渡海 邦の七舟 ちるま 四時 アミイ
ツカ着 未七舟 未六舟 アミイツカ出帆 オロシアと海
上 千四百里 未八月 未三日 カムシヤ第 一入海申
六月 中 中 カミシヤ第 出 山川 行程 三百七十
里 申 七月 朔日 午 午 午 着 家 船 百五十 軒 計
を 申 八月 朔 午 午 午 出 帆 海上 八百里 申 八月
晦日 オホツツヤ 入 申 十一月 九月 ヤコツツカ 着
申 十二月 十三日 ヤコツツカ 出 二千四百 八十六里
酉 二月 七日 イルコツツカ 着 此 所 家 数 二千二百

新 船 者 此 大 名 トリ 一 舟 人 二 匹 舟 通
初 日 舟 人 の 子 孫 を 何 人 アタムノ 祝 キル 左
一 十 此 舟 者 船 長 矣 ノ 一 舟 人 イルコツツカ 出 立
行程 五 八 百 市 三 里 べ テルブルカ 志 二月 廿九 日
此 所 王 都 也 矣 ノ 十月 廿 日 べ テルブルカ 出
立 後 法 五 八 百 市 三 里 子 正 月 二 日 イルコツツカ
志 子 五 月 廿 日 イルコツツカ 出 立 トリ 川 二 千 四 百
八 十 六 里 子 六 月 廿 九 日 ヤコツツカ 着 子 七 月
二 日 ヤコツツカ 出 立 後 法 五 八 百 市 三 里 子 八 月 三 日

大概三
里年三
我國一
里二五

才ホツカ着子ノ九月十三日才ホツカ山帆海上子
九百八十里子ノ十月九日松前領子モロ又津
但し日本ノ九月三日也ペテルブルカ子ノ子モロ迄
海陸行程二萬三千九百九十四里但し日
本ノ七尺八分ヲ一間トス五百間ヲ以一里トス

子モロハ東蝦夷ノ海ツキノ地名ナリ

以カ辛海ノ一里ハ三百五十四丈也我國ノ所
八合三ノナレハ大概十町弱トイフスニ二萬
三千一百九十四里ハ日本里數六千三百三十

五里四分ノ才ホツカ子モロマテ海上千九百八
里日本里數ニテ五百四十里餘ヲ除ケハ魯
西亞ノ陸地日本里數五千七百九十五里
餘ト知ル然ルニ此波羅亞ル里數ヲ計ルニ
カシシヤツケヨリ海陸ベテルブルカニ云ル物心里
數壹萬四百九十二里ト見ユ里數相違
セリ記シノコセル所モ見ヘキヤ

又按スルニカシシヤツケト云フ國ハ昔ヨリ松前入
ノ「カ」カサカトイヘル國ノ「ナリ」長崎人ノ

加模西葛杜加トイルナリ近來松前人の
唱フルハ「カレシヤツケ」トイルモアリ「セオガレヒ
ノ説ハ此國往昔日本ニ于シタル魚ヲ食セシ
ヨリテ名ヲ得シトアリ古來ヨリカラガケル其國
出ルトイハ「カウシヤツケ」トイルナレシ

一オロシアの都城ヤテルブルカト云昔ハムスエワと
云キヤ都城セシ人ウラシユエチヤ國の内オロシア
の地長とるゆゑ都をも定めしむなり

按ヨシニ雪除重強國ナル故ユレニ隣アリテ

都城ヲサタメシトイル「蘭書ニ見ユ

一此は漂流人ヲ送りテ蝦夷の子モロキ其自レオロシアの
婦人「アダム」「キレル空一チ」「ラツクスマシ」アダムは實
名也「キレル空一チ」は父の名也「ラツクスマシ」姓也實
名ト父ノ名ト姓ト具ク稱する人ト敬するの礼
也此國の極を仰ふこと「アダム」「キレル空一チ」
一カレシヤツカカベテルブルカエノ中程ヤコーツカは
所を右河に臨むる都也其地ハと聞之「大坂
より西」と云フ事ナキなり其地の政事ハ其地

の何人ともいふと申す人死す時即ち極楽に生ずる
吊者皆頼と頼とを分て哭きと申す甚悲し極と
語し徳と徳を心親戚あつて飲有す
以て心雁し 此所の事申す極の定地にて
四月か八月と申すある所と申す
か八月か来たる所の金の事

あつた國から申すもわかれにたも申す
おもつた月後と申すのちうらまへ
を昔に申すはあつたといふ事

みはしと申すは「か多コイ」と申す
人海を申すは「一層」と申す
と申すは「申す」と申す
「コイ」ヤク「コイ」ら「コイ」ら
と申すは海人の物申すは「コイ」ら「コイ」ら
神族あり
一日申すは「申す」と申す
申すは「申す」と申す

一と申すは「申す」と申す
申すの教は「申す」と申す

はさしつゝあはれ縁のなすつゝ

一 惣の國のあはれ縁のなすつゝ

コイとら

一 食料、鳥獸の肉或は魚の餅子とあまを甚道

てそのあまを牛とあま野の我國の米を儲をし

牛と上食と一は次はコイとら獸と食料と

を其あまを野の鳥獸の肉とて積進

そとあまを牛とあま野の肉とて積進

積進して獸肉と食料を鳥の食す僧は

積一食料供する者多かりや其あまを

周よと鳥の供する積と物とをいふ周から

破種は昔食して所も砂種のみとあま

破種の供は入船をそ積とあまのあま

揚をそとあまの牛とコイとて積とあま

運進す

一 口の中のみ千古地を農作しゆら一やま

口の中のみあまをそして積とあまのあま

あまのあまをそして積とあまのあま

みらるやうにとししむらぐさ市のおくらのあまを
おろし一其名を嘉平に言語するにさしたる
たのきえしめの程に年をふかすと目程頭を
くく大平の昔昔世に惜ずくくくく市に
幸ふまをかの店を酒に中の人を
乃ていふやとて

一 婚姻の事... 内談大抵極うて後婚家の父
母婚家の父母婚家の母とつてくく見れば
りくくくくはせとふれい守僧持と射候を

其約と極まうと時... 其心ぬをいふらうと
くくくくくくみも欲するおふれいしと
とて是ら上とて婚談改訂し取らぬく後新別
すれいまのまうく御守り婦とて母縁をさすまう
婦の死の時... 三年後始と始集す

一 昔に死刑を今に... 刑罰管轄をいふ其
其ともまうくく死にらるもけりから漂流人
かやしよゆゆりとも

一 巧しやめの人... 其方の商人めあか

物申出ると絵巻をとりし老中、あまをとりあつた
志を始め、あまの海人等、一役印えん人の定置
と見え、店を在らむむ、此の海人等、
し、此の海人等、アタム、ビウ、古也、かう、め、代を
し、あまを大舗店、のま、此舗店、アタム、の
代、領す、かう、あ、し、其、保、あ、かう、此、店、
さ、かう、此、ビ、イト、ロ、や、と、ま、此、方、の、立、目、老、の
り、し、老、中、か、か、下、等、あ、の、さ、く、あ、一、大、舗、
店、代、領、し、て、その、利、と、あ、ま、の、畢、を、免、法、店、等

官物とあ、ドコロ、レイ、の、スク、イ、ア、ツ、ブ、年、し、ま、と、さ、せ、り、
万、枚、二、万、五、千、枚、一、万、五、千、枚、一、万、枚、の、下、の、枚、
以、り、老、中、と、始、め、し、り、下、の、絵、巻、の、枚、を、あ、
あ、ま、士、高、の、あ、ま、く、あ、ま、の、商、人、か、り、其、内、か、
ま、し、く、あ、ま、の、あ、ま、の、枚、を、い、ら、う、か、ら、
一、枚、の、内、中、の、あ、ま、の、枚、を、い、ら、う、か、ら、松、正、松、を、
かう、かう、ち、の、下、の、一、五、枚、か、う、あ、ま、の、下、の、新、様、
す、かう、一、ま、あ、ま、の、枚、を、い、ら、う、か、ら、い、ら、う、か、ら、
佛、事、或、は、あ、ま、の、枚、を、い、ら、う、か、ら、い、ら、う、か、ら、

の唐ちるはふじんはらな

一佳節の事分一五節之身かしの程もあ

てふの生るを位命とす早とて國中

あら御一後よりとあふとあとの世の

あな

一母もしあ人の腰よのふとあ御のあ

とあふすああを御の後の事

一日ちあ御とあ御言あ御の酒はあ

とあ御の人もあ御のあ御のあ

一食料の牛一がののあ御のあ

あを御のあ

一あを人のあああああああああ

あああああああああああああ

あああああああああああああ

あああああああああああああ

あああああああああああああ

あああああああああああああ

あああ

ちよふイルツウコイとと國オロしやに捕は
 せしころも昂オロコウワカしめし
 一カコイヤウケ オロしやの南やうからあし流る
 一しる産中ら執皮取ととりとととと尋のゆか
 一チキリあぬ板がしき
 一オホウカ 決ゆから流あめの時も此あからお船の
 一中^ココーウ^ウり^り 都城へせん百カ
 一リ何馬車^ニ加馬^子日行百里目眩一賜
 胃顛倒して抱えぬしし^コし^コ 仍てキレ左
 #4

の車はかろくのやうに車上二半程しし
 身罷^ニ物揺り^りととがし此車割度精巧
 二百金成事らすとらふ
 一アタム佩刀^ニ紅毛の剣^を回し^てく反地
 だ^らし^らも^も尖^りと^らし^らと^らし^らと^らし^らと
 腰^にアタム^の種^を回^す身^にあ^らぬ
 志^も所^も佩^刀も^もあ^らぬ^とら^ぬ
 一アタム^の種^を回^す身^にあ^らぬ
 一アタム^の種^を回^す身^にあ^らぬ

ふすくらのやの海海人から来たつとていふひ
かにやうなつとていふひ けしめ回らるることよ

一あまのこもくつとていふひ 人の毎の勝たね
つとていふひ 風をきかえんかまの
せんもくくつとていふひ 中らあうな
きかえんかまのつとていふひ 後國の
後國もつとていふひ ちかたもつとていふひ
あつとていふひ ちかたのつとていふひ ちかた
人の後國もつとていふひ ちかたのつとていふひ

可ぬかすい

一松崎もつとていふひ ちかたのつとていふひ
八分とていふひ ちかたのつとていふひ
ちかたのつとていふひ ちかたのつとていふひ
一箱籠もつとていふひ ちかたのつとていふひ
ちかたのつとていふひ ちかたのつとていふひ
ちかたのつとていふひ ちかたのつとていふひ
ちかたのつとていふひ ちかたのつとていふひ
ちかたのつとていふひ ちかたのつとていふひ

舟船の國と云ふ一紙の程と云はれ
洋の國す

幸々文の國書

一 天明二壬寅年十二月十三日辰四時志
列名羽海出船後河沖ニテ桅痛又
柱ヨリ西北風ニテ辰巳と流行何と國大嶋
ト多島成見と云ふ年と云ふ右海成取酒徳大
凡ニ月お止る中八月ノ旨流和ノ七月廿日
昼間時アコトイウカシラヤオロコヤ人能方
流付アヤ

右桅痛抱切りカラヨリトモノ桅第地

波帆を急ヲモテニ和らう綱ヲ断リセ極
ナシ風を任を存正しと流航ハ初チ即チ
石積 紅列 様沖 城 米 所 産 石 積 様
西バガニニツエツとあらう少ク残ハ是らう
オロシヤノ月日と申ハ

未七月とけ信 居 同月十八日 アコシイツル如船
仕海上チ四百里 オロシヤノ月日と申ハ
ワカノ色由人ニテ七人ハ由カ
未ノ八月廿三日 カコシヤツカ 一ノ船 後
申ノ八月廿五日 カコシヤツカ 出ル 川 岸 分

山 中 方 道 法 三 百 七 拾 里

申ノ七月朔日チギリ反多者

同八月朔日チキリ出帆海上八百里同月

晦日オホツル改入船

同九月十二日オホツル改入道法千十里

同十月九日ヤコラツカ反多者

同十一月十三日ヤコラツカ出立道法千

四百八拾五里同二月七日イルコラツカ名

イルコラツカトヤアノ家取印千部百斗

大名二氏有り通和と日本人ノ子供役
人ノ親父又居ル此ハ親父と此ハ母也
亥正月十日イニコオウ出立后廿八日
二十三星上ペニルブルカ此所ノ天下ノ都也
此ハ九月廿日同十一月廿六日ペニルブルカ出立
道法五ノ八百二十三皇子正月三日イニコオ
ツカ等者同五月廿九日イニコオツカ出立あり同
初ノ四百ハ十三皇子同六月十九日ヤコウツカ、
同日七月二日ヤコウツカ出立后廿九日十三皇子

同八月三日オホツカハ九月十三日オホツカ
取山帆海と云九百八拾日同十月九日松本
東夷代子台ハ取入船也毎日日本ノ九月三日
ナリ道法メ初万三ノ百九十四日
丑ノ五月七日船を付子台取山帆海同六月八日
登セツ時ハ相殿ハ志代ハ丑ノ六月十七日船を立
仕同日廿日松本城アリ志代也
孝安又異國人ノ口達

伊勢國白子百姓彦吉船師昌九人教

名考

一 船頭 生五伊勢白子村若松百姓 享年六十八

一 船方 同前 享年六十八

一 水主 同前 享年六十八

右三人、若松度降申仕

一 生五伊勢若松百姓 享年六十八

卯年七月廿三日アヒシイカニ病死

一 船中惣務 生五伊勢白子村百姓 享年六十八

卯年八月九日アヒシイカニ病死

一 船長 同前 享年六十八

同前、同新也

一 水主 同伊勢若松百姓 享年六十八

同前、同新也

一 同 同白子村若松百姓 享年六十八

同前、同新也

一 同 同伊勢若松百姓 享年六十八

同前、同新也

一 同 同白子百姓 享年六十八

破

曲

市

同前

同前

辰年九月晦。同日

右宅人名アコシイワカニテ死

一 喫糞 同日松百姓 亡

申年四月廿。カコシヤウカニテ死

一 水主 同日伊勢中津村百姓 勘太守

同日丹子百姓

一 日 同日丹子村百姓 二藤藏

同日丹子村百姓

右宅人名カコシヤウカニテ死

一 水主 同日丹子村百姓 九右衛門

亥年五月廿九。イルコウツカニテ死

一 同日 同日 歳八

卯年七月 船中ニテ死

一 同日 右百姓 九右衛門

一 同日 右百姓 新藏

右兩人者之病氣存イレヨウツカニテ死

才口中人人数名前

一 役人 アダム キリロイチ ラウクスマシ

一 船匠 ワレレイ フヨラドロイ 名アリヨフ

一 通解 エゴルイ ワノイ ナトブルコフ エゴルイワノイナ
トコロナン

一 役方 日本人ノ侍 イワシ **ヘリ** **パイ** ナ ナタラベビニヨ

一 小船匠 ワレレイ ナクイ ナヲホレリフ

一 同役 フイリホキ モイナホヘツレフ

一 先立役 シヤハリシリミテシ

同人数ハシ之年 アツケシトク年

一 商人 ウラズキキワルイ ナバビコフ

一 同 イワシキリコレイ ナボロモレノイ

一 水工 三拾五人

即ち白船五人

伊勢カ國白子百姓 名ハシ船

初既 意を以て遠ノ懸ナニ通

一 神昌丸 石目丸
4名後 船子 人数 十六人 生所 上米

積入 本泊 宿 年十二月十日 伊勢カ國白子

村 小船 舟 手 船 河 沖 ち 船 舟 名 通 帆 柱 柱

ホ 痛 舟 舟 積 入 本 泊 宿 年 十二月 十日 伊 勢 カ 國 白 子

徳和卯年 乙卯年三月廿七日 船名 徳和 船主 徳和 船員 徳和

七月廿日 船名 徳和 船主 徳和 船員 徳和

新、各物御名 僅新米モ二十石 舟人 徳和 船員 徳和

正々 徳和 船員 徳和 船員 徳和

獵捕 高安、各物 船名 徳和 船主 徳和 船員 徳和

七月廿日 船名 徳和 船主 徳和 船員 徳和

才口 中国 船名 徳和 船主 徳和 船員 徳和

滞留 船名 徳和 船主 徳和 船員 徳和

同年 七月 船名 徳和 船主 徳和 船員 徳和

朝日 同所より 大船 船名 徳和 船主 徳和 船員 徳和

之 船名 徳和 船主 徳和 船員 徳和

月 九日 船名 徳和 船主 徳和 船員 徳和

ルコウ 船名 徳和 船主 徳和 船員 徳和

富、十一月 船名 徳和 船主 徳和 船員 徳和

廿日 船名 徳和 船主 徳和 船員 徳和

ツカ 船名 徳和 船主 徳和 船員 徳和

之 船名 徳和 船主 徳和 船員 徳和

之 船名 徳和 船主 徳和 船員 徳和

漂洋五箇月

十三ヶ月

廿九日

十月

川羊道法三百七十里申七月朔十六日 富敷百三子三十日

总申八月朔日午十一日 帆海上八百里申八月晦日才三十日

ホワカ入申九月十日才ホワカ出を在程千拾五申七十一日

十月九日ヤコラツカ总申十月十日ヤコラツカ出立七十一日

四百八拾六里酉二月七日イルコラツカ总四十九日

和而新程も名之也大名ト云々人二班有り通程二十四日

リ印人ノ子供親父居亥正月十日イルコラツカ出立四十四日

及法子八百里二十三日二月廿九日ペテルブルカ出立九日

所王都ナリ 亥ノ十月廿六日ペテルブルカ出立九日

道法五千八百二十三里子ノ正月三日イルコラツカ出立五ヶ月

六月廿日イルコラツカ出立下リ川部八百里ハ十三里子三十一日

六月十九日ヤコラツカ总子ノ七月二日ヤコラツカ出立三十一日

道法子十三里子ノ八月三日ヲホツカ入急子九月十三日三十一日

ヲホツカ出帆海上子九百ハ十里子ノ十月九日松前二十七日

領子モロ入律但リ印ノ九月三日ヲペテルブルカ入七ヶ月

子モロと海陸及法出万子百九十四里但日才七ヶ月

七月八分ヲ一間トス五百ツルヲ以テ一里トス

丑六月七日新寺時法子モロ出立丑六月八日登

七時に松前にお籠り、同日六月十七日朝五時に
出立六月廿日松前福山橋下、急也

信牌

丑七より十二に於て此の事あり
以手紙中にもいふは此の事なり

にわしや國の船一艘を編み
いたぬためのとるの事

一浦の編みすむ船をいふは此の事
つたよりしるす船切りの事なり

A B C D E
ア ベ カ テ

H I K L M N
ヘ イ カ ケ

O P Q R S T U
オ ヲ ク ケ コ

V X Y Z
エ キ コ

銀七十五枚也

Сєрїжантѣ.
セリサント

ВннЗєпѣ. Акїдбѣрѣ.
シンゼ / アキリシ

Катуланѣ. Соодамѣ.
カゴラン / ソヲタテ

Кажакѣ.
カガカ

їсєно. Кувн. Шнлока.
イセノ / リニシロコ

Лаїкокѣ. Коодамо. Фугѣ.
ガイコクヤ / コヲシエフテ

50 60 70 80

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19	20	30	40		
50	60	70									

6 7 8 9 10 11 12

銀五万枚

Енаралъ. фемтокарталъ
エナララ. フトリトニルヲ

銀二万五千枚

Енаралъ. Анмелъ.
エナララ. アンセツ

銀一万五千枚

Енаралъ. Промекъ
エナララ. ホロツナリ

銀一万枚

Енаралъ. Маюръ.
エナララ. マヨル

銀六百枚也

Берекаженъ.
ベレカゼツ

銀七百枚也

Понкорникъ.
ポウコウニカ

銀六百五十枚也

Понкорникъ.
ポウコウニカ

銀四百五十枚也

Ирисмеръ. Маюръ.
イリメル. マヨル

銀四百二十枚也

Шикукъ. Маюръ.
シクク. マヨル

銀三百六十枚也

Каниманъ.
カニマン

銀三百枚也

Промекъ
ホロツナリ

銀四百七十五枚也

Понпротекъ.
ポウプロツナリ

銀二百七十枚也

Курномикъ.
クウノムシキ

銀六百五十枚也

Кунуланнейкъ.
クウラヌシキ

#

1

才

4

7

1

no.

ke. ke. ne.

xy

ko no

no.

ne. ke, ke.

ko

"

2

一

4"

7"

1"

ky. ky.
ny.

A

ma

ky. by.

20. To.

A

ma.

I

7

P

E

me. me.

A

me me

E

7"

d

de. ge. de.

e

de. ge. de.

ㄩ	カ	ㄷ
바. 나.	Ka na ka	io

Tio. eio.
 キヤ
 ヲ

ㅍ	ㅍ	ㅍ
타. 마.	pe. pe	co.
ㅍ	se se	ko
다. 다.	pe pe	ㅍ

ㅍ	子	+
yy.	me. me	na ra
ㅍ	me me	
ky.		

ㅍ	ㅍ	ㅍ
pa. pa	my.	y y
sa	my.	

イ	ロ	カ
ĩ	po	xa
n	so	sa. ba
フ	po	"
u		

ト	チ	リ
mo. mo.	hi.	bi.
	un.	pn.
20. go		pi.
uo. do.	hi. hn.	pn.
ト		si.
		sn.

=	ホ	ケ
ni. ni.	ko	ke. ke
nn. nn.	so. bo	se. be
	no	

ズ	ル	ヲ
ny. ny	py	o
	sy	
	py.	

P. p. p.
フ

C. c
フ

m. m
テ

Pio. pio.
シ
フ

Y. y.
フ

B. b
フ

x. x
ハ

xio
ヒ
マ
フ

U. u
ヒ

Z. z
ヒ

U. u
ヒ

Uio.
ヒ
フ

Zio
ヒ
フ

Uio.
ヒ
フ

U. u
ヒ
フ

Z. z
ヒ
ル

U. u
ヒ

B. b
ヒ
ル

B. b
ヒ

C. c
ヤ
フ

Z. z
ヒ

C. c
ヤ

Fe. Ag. 2. 2. EeE
カ テ エ

Tio. 2io. Aio. 2io. Dio.
キ リ ヲ
ヤ ヲ
ウ ヲ

Ж. Ж. 3. 3 Чi
セ セ イ

Жiо.
シ
ヤ
ウ

K. n Na Mn
カ ナ ミ

Kio. Mio.
Kio. Mio.
nio. ミ
キ ヲ
ヤ ヲ
ウ ヲ

Nn Oo H. n
ニ オ ペ

Nio. Hio. Nio nio
ニ ニ
ヤ ヲ
ウ ヲ

Соинъ. суроу. Ажубуки.
ヲロシ井、 スコイ、 アズ ブキ、

Нинпонъ
ニ ツ ポ ン

прохасно. комб.
イ ロ ハ ン、 コ ン

А.а
ア

Б.б
ベ

В.в
ウ
エ

ヒ
マ
ウ

Б'ю. д'ю.

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

百 千 万 億
100 1000 10000 100000

一 二 三 四 五 六
I II III IV V VI

七 八 九 十
VII VIII IX X

РОССІЙСКІЯ

Үмо

g u m x y m p o

g b m y p m p o

g b m y p m p o

g b m y p m p o

g b m y p m p o

g b m y p m p o

g b m y p m p o

l f a z b s

l f a z b s

l f a z b s

l f a z b s

l f a z b s

l f a z b s

l f a z b s

Ma _マ gpe _グ ΔO _ド Jby _カ zE _キ Id _ガ

ae _ア Jpn _ナ Jy _ニ zpt _ハ Jra _ラ Te _エ

an _カ Δ/O _ド Δt _テ Jbe _ケ Jpa _ガ zn _キ

eo _ア cyby _ド gto _ト Jpa _カ zpe _エ zo _オ

ay _ヤ Jpt _ト Jra _ラ ge _エ zpn _キ Jy _グ

at _タ Jra _ラ Jpa _カ zn _ニ J/O _ド Jt _ト

epe _エ eo _オ Jby _カ Jto _ト Jpa _ガ

Jpn _ナ Jly _リ Jpt _ト Jra _ラ Je _エ

J/O _ド Jt _ト Jpa _カ Jpa _ガ Jn _ニ

J/O _ド Jto _ト Jpa _カ Jpe _エ Jo _オ

Jpt _ト Jra _ラ Je _エ Jpn _キ Jy _グ

Jra _ラ Jpa _カ Jn _ニ J/O _ド Jt _ト

mpy mb bla ppe ko kpy

mpf my me pph py pph

mpa bla mn pro ph kpa

bla mpe no ppy ph bla

pe mpm my pph py pe

hpn mpo mt ppa kra in

ka ppe zo kpy pe

ke pph zy pph py

kpa kn ppo ph kpa kpa

pe ko ppy ph pa kpe

pph ky pph py pe kph

ppo mt ppa ppa ph apo

спу _{スル} со _ソ Са _サ ре _レ ро _ロ

спѣ _{スレー} ся _{シヤ} се _セ рѣн _{レリ} рѣ _レ

спѣд _{スリア} спа _{スラ} еп _レ роо _ロ рѣт _レ

ста _タ спе _{スレ} со _ソ рпу _ル роо _ロ

ме _テ спн _{スリ} су _ス рѣт _{レリ} рѣ _レ

мл _{ライ} спо _ソ ст _セ рѣя _{レヤ} спа _{スラ}

пу _ル прѣ _レ гла _ハ нре _レ но _ノ

рѣт _{レリ} прѣ _レ пл _ベ нрн _{レリ} ну _ヌ

прѣо _レ пра _ラ пн _レ нро _レ нѣ _レ

ра _ラ пре _レ по _ホ нру _ル нѣ _レ

ре _レ прн _レ ну _ヌ нѣт _レ ня _{ニヤ}

рн _リ про _ホ рѣт _レ нрѣ _レ рѣа _ラ

u	upa	upa	ue	upa	xy
子 五	テ リヤ	テ リヤ	エ	テ リ	キ ウ
yo	ua	upe	un	yo	at
子 五	テ ア	テ レ	ナ	ヨ ホ	ア
ya	re	ym	uo	ypa	yo
テ ヤ	テ エ	テ リ	ウ ツ	テ ホ	ヨ エ
upa	un	yo	my	ypa	ya
テ ラ	ナ	ヨ ホ	メ	テ ホ	ヤ
upe	ro	ypa	ypa	ypa	ypa
テ レ	ロ	テ ホ	テ ホ	テ ホ	テ ホ
yon	uy	ypa	ya	ua	ypa
テ リ	テ ウ	テ ホ	テ ヤ	テ ア	テ レ

upa	pa	pa	upe	mo
テ ホ	パ	パ	テ レ	モ
upa	pa	pe	ypa	my
テ ホ	パ	ペ	テ リ	メ
upa	pa	pa	mpa	mt
テ ホ	パ	パ	テ ホ	テ
ua	pe	po	mpa	mpa
ハ	ペ	ポ	テ ホ	テ ホ
xe				
ヘ				
xn	pa	pa	mpa	ma
ヒ	パ	パ	テ ホ	マ
xo	pa	pa	mpa	mpa
ホ	パ	パ	テ リヤ	テ ラ

mpo
シテロ

mpy
シケル

mpit
シケレ

mpa
シケリヤ

mpa
シテエ

mpo
シテエ

mpa
シテヤ

mpa
シケラ

mpel
シケレ

mpn
シケリ

mpa
シリヤ

mpa
シテヤ

mpel
シテエ

mpn
シタイ

mpo
シテエ

mpy
シケワ

mpa
シラ

mpel
シテエ

mpn
シリ

mpo
シロ

mpy
シテエ

mpit
シケレ

mpn
シ

mpo
シヨ

mpy
シラ

mpel
シ

mpo
シ

mpa
シ

mpo
シロ

mpy
シル

mpit
シレ

mpa
シレヤ

mpa
シ

mpel
シ

А	出	М	出	Ч
Б	出	Н	出	Ш
В	出	О	出	Щ
Г	カ	П	ベ	Ъ
Д	テ	Р	ヒ	Ы
Е	エ	С	ス	Ь
Ж	セ	Т	テ	Ъ
З	出	У	ウ	Ю
И	イ	Ф	フ	Я
К	カ	Х	ハ	Ѳ
Л	リ	Ц	出	

Щи чо. Ро Ма роо р р а

р р

гаи роо.

Handwritten notes in cursive script at the bottom of the page.

CEM.

Wm. S. ...

Gaym Roo. 年

McM II
Mingo de MC Ha. 101

машииакаре, фад бабно

Аба Хо. Му. Му. Му. Му.

Ма. У. У. мо. III. У. Курд

Са. Ме. Ма. Ка. Е. Пу. Ко. Ма.

噴揚私記
漂民記

そん

殊の弁大送行り扱ふ是を車のちり世邦して行る車
の輪はつては相名入す

同用

城門の上は魯西亜中興の帝伯多録の像有る也
兄あり

そん

伯多録の像を君屋に安置はるる御宝庫に大なる
心石ありは大方なる半くは四角は仁筋金とて

物下の多き其高湯は百歩月々の磁一挺は汲り
すは磁石は眼に仕るる螺鏡と扱はるる汲りの
像遠く石や四方の磁地は房中にも螺鏡と床
の床の体は磁石とをえの心く吸着す

同用

ムスクワよ方石火矢ありて也又あり

そん

銃口へ入仰向し即ち子を定めて指先かしは之や
昔より之を万斗小相入すは同前か大鏡屋に焼成り

恩候に於て、柳し紙を、何事にも及云ふ如く、
て此の故を、

同

片は、恩候し方、何れに違ふ程、とり、

云々

必、
お忘り、
申一、
片、

同

云々

云々

先、
事、

同

何、

云々

老律とし下中役人等を御中されハ世界の西より大抵
我中と交易通商せしむる事ハ小史中の通伝を以て
此及世に之を遂行し同是交易の義と云はれハ
吾等も亦之を以て中筋として其方共と合はれハ
吾等も亦之を以て中筋として其方共と合はれハ
吾等も亦之を以て中筋として其方共と合はれハ

同

此地より耶穌宗門は入政宗海者之字之目水次りび
知しらと向て番吐しと云ふと云ふを以て中筋者と

臨折見れぬと云ふ中見及及後有るハ外

同

沙汰のめいしと云ふ名を以て其時を何處の海に
相見七夜小史の巻を所存も大御水と流小史を水
ハ云及後世と云ふ名を以て小史神代事也

同

宗門は今更なるに後世の流及中圓なるハ方也

同

前も中と通私ともハ割分た何事能はるやとの後と

そつてもたを楚のものとすを其の後のこと終り
見物作の少き

同用

十文字の改物とすも此と見れば其の
（その初め）
（法書ナリ）

三三

是の初めに此に攝入し首を平に名を三三キリスとナリ
但し十文字その初めを末より攝入して平の初め
の初め都く人の定むるに其の初めを平に攝入し
其の初めを平に攝入し其の初めを平に攝入し

此の初めに攝入し其の初めを平に攝入し
其の初めを平に攝入し其の初めを平に攝入し
其の初めを平に攝入し其の初めを平に攝入し

同用

硝子と吹の後のこと

三三

私へ千五九〇ル（即ち千五九〇）は其の初めを平に攝入し
其の初めを平に攝入し其の初めを平に攝入し
其の初めを平に攝入し其の初めを平に攝入し
其の初めを平に攝入し其の初めを平に攝入し

魯西無ハみまの比ハ時不リ鏡上可まふあふまふ

善

このと鏡きやうも是と申し六月ハ九月迄と申す中も
時不あふく量ういさうもなきと行やうに申す此の
まの所くと焼^燈りし小夜中夜よ申す、

同 後

何と様ふに思ふと何と申す小夜夜にささや

善

九とと夜あふも是と申し夜中いさうもなきと行やうに申す

叙して此をいさ初も申す申すいさく耳袋と解るる事
も切なる時。是と申す夜に思ふ夜に思ふ夜に思ふ

同 用

鷹と申す申す

善

大徳の中をいさ初も申す申すいさく耳袋と解るる事
も切なる時。是と申す夜に思ふ夜に思ふ夜に思ふ
鷹と申す申す鷹と申す鷹と申す鷹と申す鷹と申す鷹と申す
鷹と申す申す鷹と申す鷹と申す鷹と申す鷹と申す鷹と申す
鷹と申す申す鷹と申す鷹と申す鷹と申す鷹と申す鷹と申す

問 用

ハスクワルナ成不橋をハセリハ為也

答

此橋ハ橋して南門を板して板橋と云け仕事也

問 ハ

彼方ハ日本ハ何事有るか

答

何事ハ有るか彼方ハ日本ハ何事有るか
亦日本ハ何事有るか
此川ハ何事有るか

淳庵様ハ中流子ハ水取も何事有るか

事ハ事也の中ハ事也
中川淳庵ハ若別
人侍函ナリ往年

病死ハ彼邦ニシテハ官也
下子ハ何事有るか

問 ハ

水車風車無見及るか

答

水車ハ事也
羽根四枚ニ付テハ事也
是ハ何事有るか

都の乃子彼國の捉石京彫所有之也見及ふ

是

一見仕はた父新おふりち中い死る花多後も女別江筆の

私後國影及先由は先魁毎是序行死日少入題私は

後新く取及死紅毛人子たうり節送苦花在彩、而魯

西更の心と彩とて送座下中中乃海と何花をうて

中とれ花は下三事かうて也年多し魯西更うらハ花

年月を尋る不中か花、水は光前一體川をうひ中い

紅毛人おれ彩中、高花、内海、此、多、海、多、西、

イルコウツ年、そ、朝鮮人と、尼、中、小、唐、人、も、及、中、北、京、人、の

也、西、海、

その中、機、小、水、氷、の、と、た、ま、を、中、の、一、人、よ、た、は、ち、足、り、を

中、小、舟、外、子、ま、を、そ、の、水、を、其、人、の、こ、る、こ、り、に、せ、し

へ、子、五、几、ボ、ル、小、舟、の、野、猪、免、者、の、纏、錦、の、衣、野、猪、の、皮、

の、毛、お、飾、う、す、中、に、及、定、を、何、也、如、彼、玉、の、者、大、不、能、保、

中、乃、新、後、中、乃、乃、大、名、也、不、能、也、如、石、殘、及、中、の

當今世嘉^マと^ク河^カ石^シを^カ正^カガテリナアレキセ^ウナ^トヤ^ハ年^ニ
六^ノ十^ニは^子の^流名^ハハ^ウル^ベト^ロイ^チと^ヤハ^年三^十九^年孫^ハ
人^トシ^キサ^シデル^ハウ^ロイ^チと^ヤハ^年十^六人^トコ^シス
先^キシ^ハウ^ロイ^チと^ヤハ^年十^六人^トコ^シス

右^ノ傳^ノ同^ク終^ルて^ハ人^ノ深^ク長^クハ^ハ眼^ニ揚^リ紐^子持^テの
印^ハ多^クハ^ハ麻^ノの^宿り^ハ多^クハ^ハ家^ノ不^レ年^ノ大^ノ和^ノの^代ハ^ハ七^ト
公^ハ河^ノ身^ヲと^ク伴^フヤ^ハ不^レ年^ノ大^ノ和^ノの^代ハ^ハ七^ト
を^ハと^クも^ハた^クふ^クを^ハと^クも^ハた^クふ^クを^ハと^クも^ハた^クふ^クを^ハと^クも^ハた^クふ^ク
と^クも^ハた^クふ^クを^ハと^クも^ハた^クふ^クを^ハと^クも^ハた^クふ^クを^ハと^クも^ハた^クふ^ク

侍醫法眼桂川甫周國瑞誌

オロシヤ
羅義國ハ漂流セシ物列島豊村神昌丸
船瓦克太史等帰舟の後次々所物見
たされ其事地味尋を多シハと文桂川法船
命行りて片座ハ侍ハ其事ハあつたれ
し。他。其始末致取海ハ 記あるを多シ
め何ハしと事ハあつたやんハと事均を快中
秘ハ事ハあつた事ハのハ事ハあつた事ハのハ事ハ
の事ハあつた事ハあつた事ハあつた事ハ
少々の冊改ハてく毎條に批判ハしと事

十四

大分県立総合資料館
蔵書
大分県立総合資料館蔵書
大分県立総合資料館蔵書
大分県立総合資料館蔵書

かゝるもつゝ々々笑ふもそのめから其身の
薄方と云ふ人々の笑ふの極はる所也
くやふもかゝる信神貴介持雅宏
量の人命の命の安明徹の設法
うゝやちやゝの園牙はるを
くゝも信くあゝるもつゝ侍ら余は桂
公にお儀人々も所々ぬハ敢て左祖
何れぬも毎條議の事々々ぬ評論
其事の本実徹をもつて誠心々々も
其事の本実徹をもつて誠心々々も

見るとんもあゝるぬハあゝるぬハ
だれもも再びぬぬ彼言不
論すも誠の法にぬぬ
その勢とぬぬぬハぬぬもぬぬも
とぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
多門とがらぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
との年々ん、時々憲政とのやら季
神の長をぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
くゝるぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

大世のしるし

上、やけぬけるよりあまのりやうわさるものなり
けを彼をあまの離るる遊んで上りしりし
五、いよもいして見やうしりし
夏島の見遠東の承平也桂川の奇蹟し
けをそ解 桂島の自撰し
る一 毎一 五の終るる前
ムスリウとハ即 ムスリウヤノ一

よりいもいぬえしりし

切支丹ナド云フハ日本ノ林平書云不可謂十文字ハ堅
ナハ即天^所横^木地ナリ天地ニ表^木じタル堅ト云フテ直
言宗所用トツコノ如キ有ト云リ

此洋我々の知るる所分れ再洋に及らざるも

いゝゝゝ 物物の士^木いゝゝ人々^木魚^木也
幸を又この如き極るるもの豊かや
りよこハナク及るる極るる後リテ次ラるる
甚々杜撰ナル從分り

い洋の如し 且又地列六十度ニ高ル魚
い係ハイルコウワカ^{ベトルカ}の地^木りつゝるる分るる
杜撰といふや即し ぬら杜撰分るる

石橋今の本を作者より 幸を又 牙も 処一向 石
石橋今の本を作者より 幸を又 牙も 処一向 石
其の地石を不認ナリ

ちろ返あしくいぬし、不夜の言はらうに
從モヲコカマシ何レモ誦儀ハ及ヌ^請ハ念^請レ又^請其
説ヲキカン謬字ニ交リノ惡文ヲ綴リテ見セヨ又笑止
ナルナラント見ヌ先キヨリ思ヤラシヌ

此冊子各誦貴公ノ光^光又ト同答ノ記録ト見ユ
然ルシ桂川ノ別ニ構ヘタル自作ノヨウニ評シ且世人ニ
見テ信ウ女ナリトセテ^毒ナリトハ己シカ心ノ昧キヲ知ラレ
ヨリノタラ言ナリ心アル人^心以テコシテ^毒テ千古ノ奇詭ト讚
嘆スルナリ^毒此^毒何^毒ヲ見ル人ハ^毒却^毒テ久^毒シ^毒毎^毒あ^毒あ^毒イフ
ヌカレヘシ

此等學者奇詭ノニ云フト云人^毒チスルハ^毒汝^毒カ如キ上^毒ワスベリノ
片言急リノイ、ナラス事^毒ヲ^毒思^毒トモ^毒吟^毒スル^毒ナルベシ^毒真^毒ノ
學者ハ真説ヲ説クニ人^毒カワテ怪^毒ニス^毒知^毒ル^毒モノハ^毒不^毒言^毒言^毒フ^毒モ
不^毒知^毒先^毒ヲ^毒真^毒ノ^毒學者^毒ハ^毒ム^毒サ^毒ト^毒人^毒ニ^毒ハ^毒説^毒ヌ^毒ナリ

人^毒ヲ^毒欺^毒クト^毒イ^毒フ^毒ハ^毒社^毒中^毒一^毒派^毒ノ^毒病^毒シ^毒ト^毒ハ^毒何^毒ノ^毒フ^毒乎^毒未^毒タ
解^毒セス^毒人^毒ヲ^毒欺^毒クト^毒イ^毒フ^毒ハ^毒南^毒社^毒中^毒ノ^毒患^毒ト^毒ス^毒ル^毒所^毒ト^毒イ^毒フ^毒ナ
又^毒ハ^毒老^毒者^毒社^毒中^毒ハ^毒人^毒ヲ^毒欺^毒ク^毒ヲ^毒專^毒ラ^毒ト^毒ス^毒ル^毒ナ^毒ト^毒イ^毒フ^毒事^毒キ
イ^毒ツ^毒シ^毒シ^毒テ^毒モ^毒全^毒文^毒解^毒セス^毒汝^毒モ^毒老^毒者^毒學者^毒ト^毒自^毒ラ^毒許^毒
テ^毒居^毒ル^毒カ^毒汝^毒ハ^毒學^毒者^毒ニア^毒ラス^毒有^毒真^毒ノ^毒老^毒者^毒學者^毒ノ^毒イ^毒フ^毒ヲ
片^毒端^毒キ^毒シ^毒ク^毒ノ^毒フ^毒ヲ^毒買^毒ヒ^毒出^毒シ^毒何^毒事^毒モ^毒カ^毒ら^毒奥^毒至^毒
及^毒ハ^毒ス^毒上^毒ワ^毒ス^毒ヘ^毒リ^毒ノ^毒フ^毒ヲ^毒ノ^毒コ^毒シ^毒顔^毒シ^毒ツ^毒又^毒自^毒慢^毒カ^毒タ^毒コ^毒ト
ト^毒ナ^毒ヘ^毒アル^毒キ^毒老^毒者^毒學者^毒ト^毒自^毒ラ^毒ユ^毒ル^毒ス^毒不^毒屈^毒十^毒萬^毒ナ^毒リ
有^毒真^毒ノ^毒學^毒者^毒ハ^毒彼^毒邦^毒數^毒言^毒ヲ^毒暗^毒記^毒シ^毒文^毒者^毒ノ^毒誦^毒ヲ
解^毒ラ^毒シ^毒其^毒書^毒ヲ^毒誦^毒シ^毒テ^毒譯^毒文^毒ヲ^毒ナス^毒ニア^毒ラ^毒子^毒バ
其^毒名^毒ヲ^毒稱^毒カ^毒タ^毒シ^毒汝^毒カ^毒短^毒才^毒何^毒ク^毒企^毒テ^毒及^毒ズ^毒ヤ
桂^毒公^毒ノ^毒徒^毒ト^毒辟^毒月^毒ヲ^毒把^毒テ^毒高^毒論^毒セ^毒シ^毒退^毒テ^毒刮^毒目^毒セ^毒ヨ
阿^毒ハ

○ヤツホンスコイ
インペラ テリスコイ
帝國
オロシイスコイ
インペラ

○エカテリナ
フトロイ
日本ライフ
オコロレフスコイ
王
魯西亜
尚今女帝ノ名

○ウーツア 酒
オスタレ 様ノ意
ハカチヤウとの極ナリ

○カモシ 竹
○ヌバケイリカ
鼻烟盒
○ブマカ 紙

○トルツカ、トレツコイ
都兒格
○オトマンニア
トルコスコイ
の

○アラツア
ベンカリスコイ
擦葛刺

○オスツバ 疱瘡
カラジイ 疥瘡
ハトロツボ
磁器ノ煙管

○ウツナイテリ
師道
○ガシガ
煙管
西番煙ノ
リヌス人イナリ

○キリロハ
子メツの人ナリ
○ハアウロス
太師ノ師ナリ
ニナチカヲ師ナリ

○ヌ、ラ
鞆
○モローニア
モスナリ

○カムシヤツカ
チギリ
三百七十里

○チギリ
チギリ
海と八百里
陸二百里

○ オオーツル ー パエーツカ、 あナミヤ

○ ヤコーツル ー イルコーツル、 二千四百七十里

○ イルコーツル ー ペテルブル、 五千九百八十二里

三里六分ハ日本ノ一里ナリ

○ ツワルセコイセロ 天子 田舎

トイフ地ハ帝皇ノ体名新ペトル
ブルカ ー 廿一里アリ

○ モスクワ ー パトルブルカ、 八百廿里アリ日本

ノ 約百を総ナリニモハナ行ナリ

○ 吐後雜 魚 魚 刺絡
イコセイカ 魚 ロロフ 魚 ナタイ 魚

○ 考々 ペトルヘルを第 五世
エカテリナ アレキセウナ 考々子四

○ メシダアリイ エリハカカモ ○ バラシ 摩魯林

○ ルツグ モノ ○ ビリアシ ギヤマ石ノイ

○ キタイスユイ ちみ那 ○ 子メツ 名 吉 イコセイスユイ
ウチノ ウチノ

以下
6 丁
白紙



